

2012.07.01
No.370

(7・8月号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会

連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



・写真右上から／サン・チャイルド横顔 提供ヤノベケンジ・アーカイブ・プロジェクト／都内の保育園児たち／ドイツの平和グループにインタビューする中学生 ・写真中段／6月24日トーク&ライブでのライトアップ／ラッキードラゴンのパナーの下で説明を聞く／修学旅行の小学生 ・写真下段／サン・チャイルド前でガイド。聾学校の生徒たち／船底シアター／甲板のうえのミニ・トラヤン（アトムスーツ人形）

にぎわう福竜丸

修学旅行生たちの感想から

◇私は核実験や戦争のことに
ついて、知らないことが多
いのですが、核兵器はひとつ
も必要ないと思います。第五
福竜丸を残そうと活動した人
たちのように、私にできるこ
とは、もっと勉強して、多く
の人に伝えることだと思いま
す。(三重・大山田中学)

◇福竜丸の乗組員の人たちが
水爆と放射能で受けた被害は
つらくて悲しいものだと思い
ました。いま福島原発事故
で苦しんでいる人たちも、同
じ思いをしているのだと思
います。被ばくした人たちのこ
とを思いながら生活しようと
思いました。(宮城・築館中学)

◇死の灰なんて知らなかつ
た。署名簿をみたとき、こん
なにたくさんの方がこの事件
について深く思い悩んだこと
を知った。学校でレポートに
まとめるので、みんなが事件
について考えてくれることを
祈ります。(愛知・中学生)

サン・チャイルド・トーク 時代と向き合い生きる・創る

ヤノベケンジ
現代アーティスト、
京都造形芸術大学教授
美術評論家、
多摩美術大学教授
榎木野衣さわらぎのい

6月24日、企画展の記念イベント「サン・チャイルド、トーク&ライブ」が催され、ヤノベさん、榎木さんのトークとミュージシャンのヤマダタツヤさん、山田杏奈さんによる「ラッキードラゴン」の演奏がおこなわれ、一〇〇人が参加しました。イベント後、サン・チャイルドの太陽がライトアップされました。トークの様様を掲載します(文責編集部)。

第五福竜丸との出会い

ヤノベ 第五福竜丸との出会いは二〇〇四年に開かれた現代アート展(コラボシングヒストリーズ)への出展を依頼されたことからでした。船を実際に見て正直きつかったですね。人類の負の歴史を背負い込む大きな木造船の横に置けるような作品を自分はまだ作っていないと感じた。

僕は大阪万博跡地近くで幼少のとき育ち、万博の取り壊し現場に「未来の廃墟」を見て、それをテーマに核・未来を生きる装置としての作品を作ってきたわけです。それが第五福竜丸に置けるような作

品は作れていないことに、不甲斐なさも感じた。

何を作ればいいんだ、というところから「森の映画館」が生まれてきた。そこでは(ト)らやん(ト)という腹話術人形のキャラクター、僕の父親がモデルでバーコード頭でちよび髭の：そして子ども達(孫)にむかつて「生き抜いてくれ」と話す。山小屋風の作品は、じつは子どものための核シェルターで、父がへたな腹話術で話しかける。ガイガーカウンターが鳴り止むまで外に出ないでくれと、未来に対して何か残したいという姿勢の作品で、これなら福竜丸に展示しても良いのではないかと。

それまでのアトムスーツに替わりトラやんが活躍し、ラッキードラゴンを作り、さらに3・11でサン・チャイルドになったわけです。

榎木 展示館に初めて来たのはヤノベさんが展示された〇四年の七月でした。驚いたのは第五福竜丸が残されていることでした。不覚にも知らなかった。この船上に死の灰が降りそそいだ、そのモノとして原爆ドームのように残っていました。

いま、ヤノベさんの作品が甲板の上に展示され、外にはサン・チャイルドが設置されていますが、震災後これを作るにいたった心境をお話くださいますか。

大震災に直面して

ヤノベ 大震災を目の当りにして表現者としてどの方向に自分を持っていくべきか混乱しましたね。

三月一六日に「立ち上がる人びと」というメッセージを発信しました。震災直後に情報を得ようと自宅のテレビにかじりつき不覚にも見続けてしまっ

子がつぶやいた。「こんな世界で生きているほうが良いの?」あわててテレビを消した。絶望の情報を押し流されている。確信した。「今ここに芸術が必要か?の問いにはつきりと答えたい。今でこそ必要だ、と」。

正直、絶望的な気持ちのなかで、表現者として立ち続けなければいけないとの想いを明確にしたいと思った。

大学のロビーに八メートルの二本足で立つジャイアント・トラやんを立てました。そして立ち上がるモニュメント、サン・チャイルドが着想されていきました。

実はとても恥ずかしい作品をおもいつてしまった、とも思っていた。子ども像それも防護服を脱いでも生きていける環境、顔に傷がついていて遅く、希望の象徴の太陽を手にする。あまりにもポジティブで、でもそうでなければ納まらないような気がしていました。

榎木 3・11を衝撃的に受け止めるなかで、核や放射能問題をこれまで扱ってきた作家が方向転換というよりも、それをどのようにより深めていくのかということが大切だと

思ったのです。

サブカルチャー、いわゆるオタク文化、アニメ、特撮などは核や放射能とのかわりが深い。その原点にあるゴジラがまさに第五福竜丸事件を受けて作られているわけです。ヤノベ 宇宙戦艦ヤマトのような世紀末を生き抜くサブカルをテーマに作品に取り組んできた。衝撃だったのは九五年の阪神淡路大震災であり地下鉄サリン事件でした。そこからチェルノブイリへ行く決心ができました。

実際に現地で原発の周りにできた人工都市、遊園地も映画館も病院もあるそれが廃墟になっていて、そこを歩いたわけです。ところが人が住んでいない。自分はアトムスーツを着てパフォーマンズするために来たのか、表現者としてこの人たちの魂を利用したのではないのか、重たい気持ちになり、無性に謝っていたり、そんな気持ちを持ちながら、人類はどんなものにも手をだしてしまっただけではないかとの想いで後の作品を作ってきました。(3めんにつづく)

震災に向き合って

榎木 九九年に水戸芸術館で「日本ゼロ年」と言う展覧会をキュレーションし、それは二一世紀を目前にした二〇〇〇年への変わり目の展覧会で、かつグランドゼロ・ジャパン（爆心地日本）をサブタイトルにつけていた。参加作家には核や放射能に関する作品を作っていた方が多くいました。

そのオープンの直前に東海村でJCOの臨界事故が起こった。作業員の方はものすごく被ばくで周辺の住民も被ばくしました。ヤノベ あのとときのワークショップで東海村の方も参加して事故の話がされました。私はアトムスーツを着て来てきてほしいなどと言われました。もちろん着て行くことはしませんでしたが、あとで東海村を訪ねました。榎木 あの会では東海村の方からのいろいろな意見が、ああいう事故にアートはどういう役割を果たすのかのディスカッションになっていたように思うのです。

美術批評ということであえてお聞きしたいのですが、チエルノブイリにアトムスーツを着て入り、そこから作品化もされたわけで、東海村や福島には着ていくことはできないと考えられたということは、チエルノブイリに行ったことは過ちだったわけですか。

ヤノベ サバイバルというテーマで作品を作ってきて、行き詰まりというか、世界に対してどのように発信していけばいいのかということもあってチエルノブイリに行ったので、そこでの体験から見えてくることをある程度は想定もしそれを自分が引き受けるというためだったともいえるかもしれません。

榎木 震災があり、改めてヤノベさんのチエルノブイリ作品など、どのように見えるか考えたのですが、まずなぜこういう行為が可能だったのか、そこが汚染地域でありデリケートな問題ですし、極東の島国から行く、当事者ではないからできたという面があると思うのです。作品化していくうえではそれが有効にはたらくていて、そこに過度な同情

とかシンパシーや配慮が生まれてしまうと作品にならない。

今回の震災に置き換えると、ヤノベさんが関西にいて直接的な当事者とは距離がある、そこからのアプローチもあるのではないか、そういう角度で見るとサン・チャイルドは、現実には今そういう状況にはない、逆の状況で表現するよう変化しているとも考えられる。

ヤノベ 放射能の危険だとか核の問題を突き詰めていくと、それは構造的な問題が浮かび上がります。と同時に一国とか一地域の問題ではなく、当然ですが人類全体の問題だと思えてくる。いまサン・チャイルドはモスクワの美術館に展示されており、次にイスラエルに行くのですが、どの国でも共通の問題としてシンクロするようなものであつてほしいと、そういう意味では3・11に特化した問題ではないという意識も持っていますね。

榎木 構造的な問題は、東電とか関電にもあるでしょう。もう少し歴史的に視ると敗戦後の日本、原発の導入や第五福竜丸事件をきっかけにした反核運動を裏返すように原子

力平和利用キャンペーンの展開、五四基の原発になったわけです。それは東京と福島の関係をスケールアップするとアメリカと日本の問題があることがわかる。さらに福島事故があつたにもかかわらず、日本からアジアに原発を輸出する構造がつくられている。

未来を見据え創る

ヤノベ サン・チャイルドを作る衝動は、もちろん大震災に直面してのことです。こうした災禍を思いつきり跳ね返すくらいの強いモノを作らなくてはいけない、という思いに駆られたわけです。当然ですが、長く丁寧につづいていかなければとも思いますね。

榎木 われわれはああいう大震災が起こった後ですから当然、何ができるか、を考えるわけです。しかし、地震や自然災害が頻発する時期に入っているといわれ、そこに想像力を拡張していくことも必要だと思ふのです。

戦後の経済成長でつくられた消費文化というものに乗っかってきた。いま、政治や経済をはじめいろいろな地盤が揺

らいている。そんな中でアーティストの活動がどうありうるかを注視したいと思います。批評家だからといって距離を置いていれればいいというのではなく、一緒に存在する意味を考えたいと思うのです。

ヤノベさんが、「サバイバルからリバイバル」へと新たな再生で葛藤し作品展開をされて、そこからもう一度別の形で創りだすサバイバルの段階に来ているのではないかと、サン・チャイルドは、ある意味リバイバルの延長線上で太陽を手を立っています。それは新たなサバイバルに入っているともいえるのではないかと、思います。

ヤノベ 八月に福島で四回目になる現代美術ビエンナーレが開かれます。昨年は開けなかったのですが、ぜひサン・チャイルドを展示してほしいと声を掛けていただき、とりくんでいます。

榎木さんの活動もこういう状況のなかでどういう視点をもちのか、アクションを起こすのか、スリリングな関係を保ちながら注視していきたいと思ふます。どうもありがとうございました。



第五福竜丸の船首の下に
つらえた狭いステージに二台
のアップライトピアノが据え
られました。演目の最後は、
ラベルのボレロで二台のピア
ノ用の編曲は林光さん。客席
から声が飛び、大きな拍手が
あがりました。

2台の被爆ピアノ によるコンサート

明日へ…希望を
たもちつづける

五月二三日、第五福竜丸展
示館にて広島市の被爆ピアノ
によるコンサートが開かれ
ました。六七年前の八月六
日、爆心から一・八キロで被
爆した通称「ミサコのピアノ」
(一九三二年ヤマハ製)と二・
六キロで被爆した「カズコの
ピアノ」(一九四〇年独ホル
ゲル製)が運びこまれました。
これらのピアノは、広島市の
矢川ピアノ工房で被爆ピア
ノを修復し平和のためのコン
サートへの活用を呼びかける
調律師・矢川光則さんにより
提供されたもの。昨年三月
一日の東日本大震災、福島
原発事故による多くの犠牲・
被害と原水爆による惨禍を心
に刻みながら明日への希望を
つないでいきたいとの構想で
プログラムが組まれました。

第一部「FUKUSHIMA か
ら明日へ」は、ピアノリストの
室坂京子さんと五弦ベシス
トの水野俊介さん。ピアノの
即興からバッハのアリア、水
野さんの「しずかに世界を想
う時」そして「FUKUSHIMA」
が鎮魂のように響きまし
た。ベースソロの「What a
Wonderful World」はジャンー
な響き、「広島地方の田植え
唄」は室坂さんの編曲で民謡
旋律をリズムカルでコミカル
に演奏、「鳥の歌」がベース
とピアノで独特の雰囲気をか
もしました。



第二部「希望をたもちつづ
けるために」は、寺嶋陸也さ
んの「エレジー」(悲歌)か
ら始まり、青木美佐子さん(こ
んにやく座)による絵本『ミ
サコの被爆ピアノ』(松谷み
よ子作)の朗読、ピアノソロ
で宮澤賢治の「星めぐりの歌」
(寺嶋編曲)につづき林光ソ
ング三曲、「すきとおってゆ
れているのは」「祈り」「飛行
士なのあのひと」を青木さん
が歌いました。



林光作曲のピアノ連弾曲
「ブランキ」、二台のピアノで
「ボレロ」、アンコールに林作
品「酩酊するアルレッキーノ」
が披露されました。最後に、
「森は生きている」(広渡常敏、
林光)を全員で歌い、「明日へ
の希望」を胸に終了しました。
* *
(感想より)
◇ずっと来たかった第五福竜
丸にコンサートで訪れまし
た。広島市のピアノの命、水
爆実験被ばくの福竜丸の歩
み、失われた命、核の脅威
ではなく人と人とのつなが
りを強く、と願います。
◇曲目、構成、演奏がとても
素晴らしく、館の音響効果

コンサートのDVDができます。 賛助会員に特別頒布

2台ピアノによるコンサート全曲を収めた限定制作
頒価 1500円【送料込】

*申込は展示館までFAXもしくはメールにて

FAX : 03-3521-2900

E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp

◇ガラス越しに緑が見える会
場、学生合唱団時代に室坂
さんの伴奏でうたい、その
ピアノがまた聞けてうれし
いです。
◇被爆ピアノは美しい音色
で、絵本「ミサコ」の朗読
ですべてが伝わりました。
ピアノ連弾は音楽の喜びや
楽しさがいっぱいでした。
◇被爆したピアノを修復しよ
みがり、第五福竜丸を囲
むコンサート企画に拍手で
す。

新藤映画と 林光さん

～生き続ける二人の仕事～

池田逸子

流れる林光作曲の新藤映画音楽「裸の島」「鬼婆」「竹山ひとり旅」「午後の遺言状」「一枚のハガキ」を聴いていると、あらためて熱いものを感じ上げてきた。

映画監督・新藤兼人さんの揮毫した「第五福竜丸は生きています」を見上げながら、被爆ピアノを使ったことしの展示館コンサートを聴いてからひと月も経たないうちに、新藤さんが不帰の人となった。亡くなる前夜のうわ言が「そこは日本語と英語と、両方で撮りましょう」！念願の次作「ヒロシマ」を撮っていたのだろうか。最後の最後まで映画人生を貫いた百歳の大往生。通夜の会場にくりかえし

第五福竜丸は 生きています

新藤兼人

すべりだしは難航したけれども、おそらく新藤さんは看破したのだろう。若い林さんの作曲家としての職人的な技術力と機動力、さらに発想の柔軟さを。そこに期待し、仕事仲間として林さんを選ん

だ。「裸の島」で国際的な評価を得てからは、ますますそう確信したに違いない。

そもそも林さんは劇場の仕事を通じて、多様な注文への職人的な対処を厭わぬ態度を身につけていた。むしろ積極的にそれを楽しんだと思う。芝居に必要とされる多様な音楽の書き方がさらに熟達する六〇年代以降は、そのスタンズがより明確になり、劇音楽とは違って観客を瞬時に映像の世界に引き込む映画音楽の書き方にも習熟する。とりわけ九〇年代以降の作品では遊び心すら感じさせて、楽しんで作曲している様が聞き取れる。「午後の…」で引用する自作の劇音楽、「生きたい」の林光流ボレロ、「三文役者」で句わせる「裸の島」の音楽、「ふくろう」の希望ヶ丘開拓団団歌、「石内尋常高等小学校 花は散れども」の校歌やチャンバラ音楽等々。

反骨精神を貫き、エネルギーッシュで若々しい仕事振りだった新藤さんと林さん。残された作品とともに二人は今もなお、生き続けている。(いけだいつこ／音楽評論家)

新藤兼人さんの 第五福竜丸



「生きていくかぎり生きぬきたい」。

ビキニ水爆実験被災五〇年を記念する二〇〇四年二月二八日に催した映画『第五福竜丸』特別上映・講演のおり、書いてくださった色紙の言葉です。この講演で、福竜丸の製作苦労話に、参加者が笑い転げながら監督のお話が心に染みだすことを思い出します(講演は「福竜丸だより」307号に詳報)。

新藤さんは、「原爆の子」以来、広島の原爆被害をテーマとする作品を発表していき

ますが、『第五福竜丸』はドキュメンタリードラマの手法で、第五福竜丸の出航から久保山愛吉さんの死までを、取材に基づく詳細なシナリオハインテイングを重ねて、製作されました。半世紀を経てなお、この作品は生身の人間が核実験の死の灰にさらされた様を、力強く告発しています。

そして、この映画音楽に基づく、林光さんのピアノ五重奏『ラッキー・ドラゴン・クインテット』が誕生し、船の下で奏でられました。完結編演奏のコンサートには体調不良のためお越しいただけませんでした。第五福竜丸は核のない未来にむけて航海をつづけます。お二人の作品とともに、ひびきあいながら。

* * *

新藤兼人監督は、五月二九日に逝去されました。一〇〇歳でした。映画『第五福竜丸』のDVDは展示館で購入できます。

福竜丸建造65年

りゅうのはなし

福竜からラッキードラゴンへ

通常木造船の寿命は二〇年といわれているなか、第五福竜丸は建造から六五年を迎えました。

和歌山県古座町（現串本町）で誕生しようすから、一九八五年の大補修までを写真と図面でたどるパナーが船体に沿ってさげられていきます。この資料は好評につき、夏休み中も展示されることになりました。また、船の設計



や船大工の道具（大鋸、カンナ、チョウナ、製図道具一式）の現物が展示されているほか、福竜丸の名前の由来と、「りゅう」にまつわるウンチクや表現される福竜丸「ラッキードラゴン」が登場する絵本を現物展示しています。

解説シートの一部を紹介いたします。

§ 「福」と「竜」に たくされたもの

戦争中、漁船は戦争にかりだされ、多くの漁師が命をおり、たくさんの船が沈められてしまいました。戦後、食料不足、とりわけ動物性たんぱく質をおぎなうためにも、漁船が必要でした。その時代につくられた一隻がこの船です。

第五福竜丸の船主・西川角市さんは、福竜丸という名前



がとても好きでした。

この船を買いとる前に、第二福竜丸という船に乗って仕事をしており、自分が船を持つことになったときに「第五福竜丸」と名づけたのです。

漁師の生活は「板子一枚下は地獄」といわれ、いのちがけの仕事です。

福をさずけてくれる竜。航海の安全と大漁を祈って名づけたのです。

§ ラッキードラゴン

第五福竜丸の被ばくのニュースは、日本以外の新聞でもとりあげられました。

最初「Fukuryumaru No5」「FukuryuMaru」などと表記されていました。

雑誌ライフでは「福」と「竜」を訳して「fortunate dragon

（幸運なりゅう）」と書きました。（1954年3月28日号）

物理学者ラルフ・ラップ博士は、第五福竜丸の被ばくについて雑誌「ハーバースマガジン」でルポルターージュを連載した際、タイトルを「The Voyage of The Lucky Dragon」ラッキードラゴンの航海」としました。

この連載の挿絵を描いたのが、画家のベン・シャーンさんでした。シャーンさんは、連載の前後にたくさんの第五福竜丸に関する絵を描きました。そして一枚の「ラッキードラゴン・シリーズ」（彩色画）が誕生したのです。

名前はラッキーだけれど、その運命はアンラッキーだ、という人もいます。けれど、この船は漁師たちが命がけで無事に日本に帰ってきたからこそ、わたしたちは水爆実験の恐ろしさを知ることになり、魚の放射能汚染や放射能の雨の実態が明らかになったのです。

§ 表現としての「りゅう」

シャーンさんの「ラッキードラゴン」や作品はたくさんのアーティストに影響をあた

えました。

映画『第五福竜丸』（新藤兼人監督 1958年）の音楽を担当した林光さんは、第五福竜丸展示館でのコンサートのために、この映画の音楽をピアノ五重奏曲（ピアノと2バイオリン、ピオラ、チェロで演奏）に編曲し、「ラッキードラゴン・クインテット」と名づけました。

詩人のアーサー・ピナードさんは、シャーンさんの絵本『ここが家だ』を構成して、言葉を添えました。この絵本にめぐりあった福島弘和さんは、吹奏楽曲「ラッキードラゴン—第五福竜丸の記憶」を作曲しました。

そして、ヤノベケンジさんは、じつさいに水のうえを走るラッキードラゴンを作りました。ヤノベさんの作品が、船の上にも展示館の外にも展示されています。

ヤノベさんは、どんな思いでこれらの作品をつくったのでしょうか？

みなさんなら、どんなりゅうドラゴンを考えますか？

（いちだ まり／第五福竜丸展示館学芸員）

連載⑬

晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

石垣りんさん「さよならの

会」は、二〇〇五年二月七日に山の上ホテルで開かれまし
た。NHKアナウンサー山根
基世さんの司会で、谷川俊太
郎さんから、茨木のり子さん、
新川和江さんなどの詩友、近
しい人たちが、りんさんの思
いを語り、伝えました。

谷川さんは弔詞で「あなた
は詩では怖いほど正直だった」と述べています。前号で紹介
したりんさんの詩「落花」で
りんさんは「いのち、死の灰」
のことばをひき、迫る「怖さ」
をにじませていました。茨木
さんはりんさんの詩作品とそ
の生き方に強さと「いさぎよ
さ」を見ていました。

*

前号では八重紅大島桜の話

題から石垣りんさんの桜への
思い、福竜丸展示館訪問記を
紹介しましたが、語られたり
んさんの思いに合わせるよう
に、谷川さんと茨木さんのこ
とばを紹介しました。

詩人の話題を引き継ぐよう
になりましたが、今号では、
谷川俊太郎さん茨木のり子さ
んがご一緒に原水爆反対・ピ
キニ被災にかかわられた仕
事、その作品を紹介したいと
思います。

*

あの時はオドロキだったね
え
マグロがいやな音たてやが
って

先祖がみつけたトロの味

そうやすやすと

ケチつけられてたまるか

い！

蒼くなつたは 河岸寿司屋

魚屋ばかりじゃござんせん

にぎりの好きなこのあたし

中トロたべられぬ

世の中なんか

聞！

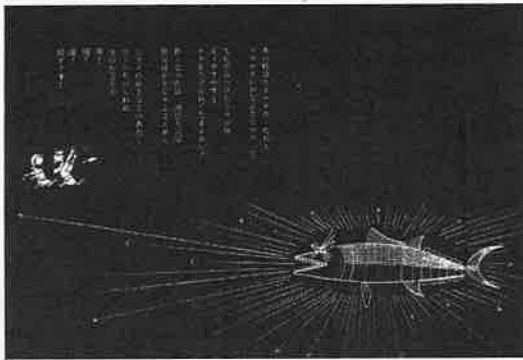
聞！

聞！

聞ダワヨ

*

この詩は茨木のり子さんが
一九六〇年日本原水協発行の
パンフに寄せた三篇の詩のひ
とつです。江戸前のことば、
豊かな諧謔のなかに怒りと不
安をとらえ見事です。この詩
を掲載した通称「漫画パンフ」
は、構成＝関根弘、詩と文＝
谷川俊太郎・茨木のり子、え
イラスト＝久里洋二・真鍋博。
A6判16ページ2色刷、定価
10円の小冊子です。内容には
久里洋二さんのストーリー漫画、
谷川＋久里＋真鍋の「原水爆
があるかぎりシンパイは消え



ない」が折り込まれ、茨木さ
んの詩には真鍋さんのイラスト
トが合わされています(図版)。

*

私が日本原水協の事務局に
アルバイトで通うようになる
のは五八年の春からです。長
い療養生活で知り合った僚友
が先に退院し、原水協事務局
に専任して、私が療養所
のサークル詩誌に携わって
たことから編集の手伝いに
声をかけてくれたのです。

冊子などの編集に加わりな
がら、詩や挿絵などを出版物
に取り込むことができないも
のかと思いました。事務局は
手薄で、また一種の寛大さが
あり提案は実行まで責任を持
たされたのでした。一冊の担
当も回ってきました。私はサ
ークル詩誌の人脈を伝手に詩
人の関根弘さんと長谷川龍生
さんに会いました。龍生さん
は、広島の林幸子さんの詩を
勧めてくれました。関根さん
は詩「行ってみたことない海
に」を寄せてくれたのです。
五九年の第五回世界大会の
開催地は広島でした。大会に
むけ宣伝活動にも期待が寄せ
られました。その頃、原水協

のポスターなどの宣伝物の制
作に協力的に参加していたの
は粟津潔さんでした。編集に
合わせて宣伝の仕事も担当す
ることになり、粟津さんとお
会いする機会が増えました。
そのなかで原水協の宣伝物の
共同制作ができないか話し合
うようになりました。関根弘
さんも賛成でした。当時事務
局主任だった吉田嘉清さん
にも伝えました。

*

五九年春、原水協情宣部に
付属する形で「宣伝技術グル
ープ」が生まれました。
代表に関根弘、コーディネ
ーター瀬木慎一、詩人長谷川龍
生、デザイナー粟津潔、杉浦康
平の各氏でスタートしました。
共同制作には、ポスターなどの
媒体、また行事などの企画に合
わせて各分野のクリエイター
が参加、「漫画パンフ」の制作
もその一つでした。

こうして制作した各種の作
品はそれぞれ高い評価を受け
ることになります。すぐれた
キャッチフレーズ、コピーも
つくられていきました。
(やまむらしげお／第五福竜
丸平和協会顧問)

8月のヒロシマへ…



展示館前ひろばに立つサン・チャイルドに見送られて、今年も国民平和大行進、日本山妙法寺の平和行脚が広島へ向けて出発しました。

5月6日の平和行進出発式には800人が参加し、第五福竜丸平和協会から川崎昭一郎代表理事が「核兵器のない未来へ向けての、たゆみない歩みを期待しています」と挨拶しました。

6月13日はあいにくの大雨でしたが、日本山妙法寺の僧侶をはじめ、宗教者が館内を一周し、広島へ向けて出発しました。

テン
10フィート映画 DVD で発売

1980年代、市民運動によってアメリカから原爆記録の映像を入手し、記録映画の製作・上映する「10フィート映画運動」の『にんげんをかえせ』（橋祐典監督）『予言』（羽仁進監督）製作30年を記念して、DVD化しました。

東京大空襲のアニメ『君知ってる？ 首都炎上』（橋祐典監督）、銀座空襲をテーマにした『ぼくのいる街』（黒木和雄監督）も同時発売です。

問合せは平和博物館を創る会まで、FAX03 (3454) 9800。展示館でも扱っています。



イベント参加者の感想から



ラッキードラゴンのライブ演奏

- ・第五福竜丸事件を知らませんでした。ヤノベさんは外見だけでなく中身も純粋にカッコイイおじさんでした。
- ・榎木先生の授業でトークの事を知りましたが展示館の存在は知りませんでした。サン・チャイルドに元気をもらいました。
- ・これから起こることに対して想像力を働かせる、榎木さんの言葉に共感です。

ヤノベケンジ作品の展示は、このサイトでも！ <http://kyap.tumblr.com/>

若島幸作さん逝去

第五福竜丸保存運動に最初期から尽力された「三羽カラスと紅一点」の一人、若島幸作さんが6月22日逝去されました。

若島さんは江東区役所勤務時代、まだゴミの埋め立て地だった夢の島に通い、ある時はバケツで水をくみ出し、ある時はフランスの核実験に抗議してゴミの中で座り込みをされたお一人でもあります。私たちがいま、この船の下で語りかけられるのは、船が保存されたからこそだと、あらためて心に刻み、ご冥福をお祈り申し上げます。

協会評議員会開かる

公益財団法人第五福竜丸平和協会の定時評議員会が5月20日に学士会館で開催され、平成23年度（2011年4月1日～2012年3月31日）決算にかんして、理事会の決定および監事による監査を経た財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、同内訳表、財産目録）について審議され、提案どおり承認されました。

また評議員会では、平成24年の事業計画、展示館の来館者動向や最近の動きなどについて報告され、被ばく60年の事業の構想についても意見交換がおこなわれました。

* *

平成23年度正味財産増減計算書

単位 (円)

経常収益 (合計)	23,284,063
基本財産運用収益	3,000
事業活動収益	20,417,366
受取会費	1,770,000
受取寄付金	1,079,568
雑収益	14,129
経常費用 (合計)	21,644,130
事業費 (計)	19,955,946
公益目的事業 (展示保存、資料収集、普及広報)	18,491,971
その他の事業 (出版物・記念品頒布)	1,457,775
管理費	1,694,384
当期経常増減額	1,639,933
当期在庫高増減額	△ 339,496
当期一般正味財産増減額	1,300,437
一般正味財産期首残高	19,405,891
一般正味財産期末高	20,706,328
正味財産期末残高	20,706,328

